

**集** 山の中の小さな集落  
**特** 「北郷地域」のとりくみ  
 みんなでやったら  
 何でもできる

北郷地域は、本谷地区・大井川地区・大屋式地区の北郷小学校区3集落からなる地域です。国道56号から県道大用大方線に入り、道なりに進むと、初めに3集落の中で一番人口の多い大屋式地区（85人）に到着します。途中、道がふた手に分かれ、左は大井川地区（人口40人）、右に進むと本谷地区（人口27人）にたどり着きます。

本谷地区・大井川地区は過疎化が進んでおり、両地区とも65歳以上の人口割合が半分以上を超えています。もともと北郷小学校区の間がりで、小学校行事などを通じて交流が図られてはいましたが、平成16年に北郷小学校が休校になってからも、3地区合同での運動会を継続、校舎横の体育館を利用して敬老会や年末の忘年会などを行い地域内の交流が深められています。2年前からは、「地域の高齢の方に、近場で花火を楽しむ

んでもらおう」という思いから花火大会が始まりました。家庭的な雰囲気の中で行われる祭り、フィナーレを飾る迫力満点の山中花火は地域内外から大変好評です。これらの行事や催しの際には、各家庭から人員を集めた「地域のお助け隊」や、いつも「やつたらおもしろそうなこと」を考えている「北郷ひばり工房」の面々を中心となって計画や準備を行っています。

**北郷小学校校舎を中心に  
地域づくりを**

2回の夏祭りを成功させ、昨年は黒潮町民会議事業「子ども広場」で約70人もの小学生を受け入れ夏休みの思い出づくりを手伝いました。地域の住民だけでなく、外



から訪れた方たちに北郷地域の自然や文化、人の魅力に触れてもらい、その交流の中から人をもてなし楽しんでもらうことで得られる喜びを知り、また地元の魅力に改めて気づかされるといふ貴重な経験を積んできました。活動に取り組む中、小学校校舎を中心にもっともっと色々なことをしたいという気持ちで北郷地域で大きくなってきています。

**初めての「菜の花まつり」**

昨年、稲刈りが終わった田や休耕田に菜の花の種をまきました。3月には菜の花いっぱいになった北郷で「菜の花祭り」を計画、当日はあいにくの雨天でしたが、満開の菜の花をあしらった体育館で、



北郷地域の方々や地域外の参加者と一緒にコンニャクづくりに餅つきを楽しみ、山菜の天ぷらや豚汁などの手料理を味わいました。

菜の花祭りを計画したものの、菜の花の咲きが悪く、大変心配した時期もありましたが「実際にやってみたら、菜の花も大事やけど、一番大事な、意味があることっていうのは他にあると気づいた。準備とか何かをする時、みんなできしよにする。その交流が一番大事やと。それに、地域の自然とか住んでいる人の新しい魅力の発見にもつながった。やってよかった」と、みんな楽しめた様子。

自分たちが楽しめる無理のないやり方で、少しでも地域の人々が楽しめる場を作ろうとする北郷地域のみなさん、小さな集落でも、やろうと思えば何でもできることを実践し



て教えてくれます。

今後、地域の魅力の発掘を継続しながら、菜種油の販売で活動資金を得られるように菜の花栽培を本格化させるとのこと、最終的な目標は北郷小学校の校舎を利用した地域活動を行うことです。わくわくするような活動がすぐにもありそうな、目の離せない北郷地域、今後の活動にも期待がいっぱいです。

**ある北郷の「ふし」**



大屋式地区の畦地さん夫妻宅にて、手づくりの石窯で焼いた天然酵母パンで昼食。テーブルにはつぶつぶの裏山みかんジュース、米飴で作ったブルーベリージャム、素朴な田舎料理が並び、「菜の花祭よかったね」「次はどんなことをしようか」と会話も弾みます。